

旭神経内科リハビリテーション病院

昨年12月にオンライン形式にて、「高次脳機能障害 当事者の生きる世界と医療従事者に望む支援」をテーマに外部向け講習会を開催しました。当事者様が実際に感じたことを伺うことができ参考になった、と多くの参加者様から好評の声をいただきました。来年度も新たな企画を検討し、より多くの方に興味を持っていただけるような内容を目指して参ります。

集団訓練「さくらの会」では、外部の事業者様からの希望者も参加し、数年ぶりにパンケーキ作りのプログラムを実施いたしました。普段は料理をされない方もいましたが、スタッフだけでなく利用者様同士でも協力しながら作られていました。こちらも好評をいただきましたので、来年度も企画していきたいと考えています。



亀田リハビリテーション病院

2026年2月21日の高次脳家族会定例会では、「何が困ったか」をテーマに活発な意見交換が行われました。退院後の相談先が分からず支援が途切れてしまう不安、行政支援の不足や制度の狭間に落ちやすい現状、認定や手続きの難しさ、窓口担当者の理解不足、年金など経済的な困りごとも挙げられました。また、高次脳機能障害者支援法の制定により、何が変わるのか、どんな支援が受けられるのか、今後の具体的な動きへの期待も示されました。さらに、継続的な支援体制や専門職育成の必要性についても意見が出され、家族会として提案を行政にどう届けるかについて議論が深まりました。地域新聞『房日新聞』にも家族会での様子が掲載されました。



総合病院 国保旭中央病院

令和7年11月27日、当院にて高次脳機能障害支援研修会を開催しました。今回は当院言語聴覚士が講師となり、「高次脳機能障害のある方の思いを理解するコミュニケーションの工夫」をテーマに講義とグループワークを実施し、約30名にご参加頂きました。参加者は医療・介護・福祉・就労など多様な領域から集まり、初対面同士でも交流を深めながら意見交換が行われました。アンケートでは「実際の事例を知って、対応方法が想像しやすかった」「支援者同士で話し合う機会がなかなか無いので、様々な事例を共有できてよかった」といった声が寄せられました。



皆さまの声を反映しながら、次年度もより良い研修を企画していきます。

編集後記

今年度もあっという間に3月、この号が皆様に届くころには新年度がスタートしていることでしょう。昨今、「高次脳機能障害 支援養成研修」の開催や「高次脳機能障害者支援法」の成立など、高次脳機能障害がとてHOTなワードになっております。我々もこのBigWaveに乗り遅れないよう、いやむしろ先陣を切るつもりでノッていきたいと思っております。55号のセンター長コスプレは、最新作「くだおれ太郎」です（2025年度のリハケア合同大会が大阪開催だったので）。発表時にも一瞬投影されたとか…？サブリミナル効果ですかね？（編集担当：K）



こ〜じのう 掲示版

2026.3 vol. 55

発行日 ■ 2026年3月31日
 発行 ■ (社福)千葉県身体障害者福祉事業団 千葉県千葉リハビリテーションセンター
 千葉市緑区菅田町1-45-2 TEL. 043-291-1831(代)内線198
 発行責任者 ■ 地域支援センター
 高次脳機能障害支援部 [高次脳機能障害支援センター]
 部長 森戸 崇行
 http://www.chiba-reha.jp/ ※ホームページからもご覧いただけます



掲示版



- 支援センターだより
- 全国の動き・イベント講習会報告

こ〜じのう掲示版は千葉県千葉リハビリテーションセンターや千葉県、全国の高次脳機能障害に関する情報を紹介する広報誌です

菜の花メッセージ

菜の花メッセージは、高次脳機能障害支援にかかわる方々から、応援メッセージをいただき掲載しております。



祝！「高次脳機能障害者支援法」成立！

日本高次脳機能障害友の会 理事長

片岡 保憲
かたおか やすのり



2025年12月16日、高次脳機能障害のある当事者とご家族が長年待ち望んだ「高次脳機能障害者支援法」が成立しました。日本高次脳機能障害友の会は、10年以上にわたり国や行政への要望活動や理解促進のためのシンポジウム開催などに取り組んでまいりました。2025年4月に超党派による議員連盟が発足し、法整備への機運が大きく高まり、その後、議員立法として法案が提出され、制定される運びとなりました。本法の成立に向けてご尽力くださいましたすべての皆様に、心から深謝申し上げます。

あらためてとなりますが、高次脳機能障害は、外見からは分かりにくく、「見えにくい障害」と言われてきました。周囲の理解がなかなか得られず、日常生活や社会生活に支障をきたしている方が多数存在します。普及・啓発の課題や医療機関と地域・福祉の連携の課題、医師の診断の課題、生活・就労・就学における課題、支援者の人材確保や育成の課題、高次脳機能障害のある子供の課題など、課題は山積し、長年、「制度の狭間にある障害」とも言われてきました。

このような状況のなかで、本法が成立したことは、高次脳機能障害に対する社会全体の理解が一層深まり、支援の輪が広がっていくきっかけになるのではないかと期待しています。本法の施行により、各都道府県において、居住地に関係なく、高次脳機能障害のある人が適切な支援を受けられる環境整備が整うことを期待します。そして何より、高次脳機能障害のある人が、1人の人として尊重され、住みたい地域で自分らしく生きることができる、そんな未来がくることを願っております。





**令和7年度
関東甲信越ブロック・東京ブロック合同会議**

2025.11.27
オンライン開催

各都道府県で共有したい事項や質問を事前提出し、各地域拠点から回答を共有する形で会議が進められました。注目が高かったのは、昨年度から開始された高次脳機能障害支援養成研修の実施についてです。参加者から開催状況を具体的に確認する質問が多かったです。研修は講義をオンデマンド、演習を集合形式で実施しているところがほとんどであり、研修後独自にフォローアップを展開している県もありました。会議では活発な意見交換がされ、千葉県でもより良い研修につなげていきたいと感じました。



**令和7年度
高次脳機能障害支援ネットワーク連絡協議会**

2025.12.17
千葉リハ&オンライン

県内4支援拠点機関及び支援拠点機関以外の関係機関約40名が、対面もしくはWebにて参加されました。4つの支援拠点から、支援普及の実施状況や現状の課題などの報告、他関係機関からの取り組みや課題等についての報告があり、それぞれの活動や課題を共有することができました。また高次脳機能障害者支援法の成立についても触れられました。これに伴い、さらにこの事業が発展するよう尽力していきたいと思いました。



**令和7年度
第2回高次脳機能障害支援普及全国会議**

2026.2.13
オンライン開催

令和7年12月に国会にて可決・成立し、令和8年4月1日から施行される「高次脳機能障害者支援法」の概要について、厚生労働省からの説明や、支援法の詳細について発達障害者支援法との比較も踏まえた解説、今後の支援がどう変わるのか？ポイントとなる点についてのお話などがありました。まだ具体的な動きに向けた情報が出そろうていない状況ではありますが、当事者・ご家族の期待に応えられるよう取り組んでいきたいと思えます。



**令和7年度
第2回高次脳機能障害支援コーディネーター全国会議・シンポジウム**

2026.2.13
オンライン開催

シンポジウムでは、高次脳機能障害の子どもを持つ家族の会「ハイリハキッズ・ハイリハジュニア」代表の中村千穂様による講演が行われました。講演では、これまでの活動が高次脳機能障害者支援法の成立へと結実していった経緯についてお話がありました。また、現在は就労継続支援B型事業所で働いている高次脳機能障害のお子さんのこれまでの歩みや、「ハイリハキッズ」の具体的な活動内容についてもご紹介いただきました。



高次脳機能障害者支援法がスタートします

— 誰もが安心して暮らせる社会へ、大きな一歩 —

2025年12月16日、国会で成立し、2026年4月1日に施行予定の“日本初の高次脳機能障害に特化した単独法”です。目的は、高次脳機能障害のある方が、どの地域でも切れ目なく必要な支援を受け、自立と社会参加を実現できるようにすることです。

高次脳機能障害者支援法で 何が変わる？

項目	法律施行による主な変化
1. 支援の“義務化”	国と自治体が施策を計画・実施する法的義務を負う。地域差の是正が進む。
2. 切れ目のない支援	医療 → リハビリ → 生活 → 就労まで一貫して支援が続く仕組みを法律で明文化。
3. 支援センター設置 (義務化)	都道府県に 高次脳機能障害者支援センター が必ず設置され、相談窓口が明確に。
4. 学校での支援強化	個別教育支援計画の推進、いじめ防止、大学・高専での合理的配慮の明確化。
5. 就労支援の拡充	ハローワーク等との連携強化、就労準備～定着支援が体系化。
6. 家族支援の明記	相談・情報提供・助言、家族会などへの支援が正式に制度化。
7. 権利擁護の強化	差別防止、虐待防止、消費者被害防止などを法律に規定。
8. 障害の包括的定義	記憶・注意・遂行・社会的行動障害に加え、失語・失行・失認も正式に対象へ。
9. 施行後3年で見直し	PDCA(評価 → 公表 → 改善)を導入し、3年後に法改正を検討。



この特集を編集している時点ではまだ色々検討・模索中ですが、法律の追い風を受けて、高次脳機能障害支援の先進県となるべく頑張っていきます！

講習会・研修会 予告

2026.9.5 高次脳機能障害リハビリテーション講習会

★どなたでもご参加いただけます
高次脳機能障害者支援法の成立を祝して、今回巻頭言を寄せてくださった「日本高次脳機能障害者友会」の片岡理事長をお招きします！

2027.1.23 高次脳機能障害リハビリテーション千葉懇話会

★専門職向けの研修会です
昨今話題の、「治療と仕事の両立支援」につきまして、中国労災病院(広島県)の治療就労両立支援センター長、豊田章宏先生をお招きします！

※予定は変更となる場合があります 詳細は千葉リハHPでご確認ください



千葉市 研修会

「高次脳機能障害の特性と対応」

支援者対象「千葉市高次脳機能障害研修会」に講師として参加しました。〈高次脳機能障害の特性と対応〉についてセラピストが講義しました。その後、いくつかの架空事例を元に〈高次脳機能障害の具体的な支援〉についてソーシャルワーカーが伝えました。参加者は26名で、行政機関の方が多かったです。高次脳機能障害の方に関わっている方も関りが無い方もいました。みなさん熱心でいくつも質問がありました。さらに聞きたいことなどいくつかいただきました。今後もさらに地域の実状にそった内容を伝えて支援普及に努めたいと思います。

2025.9.26
千葉市役所



▲市役所内のレストラン
ほうれん草カレー
美味しかったです

第8回 高次脳機能障害生活版ジョブコーチ支援研修会

今年度で8回目を迎え、毎年定員を超えての申し込みをいただき、今回は34名の方にご参加いただきました。事前学習では高次脳機能障害の症状と対応について視聴、当日集合研修では生活版ジョブコーチ支援手法を事例を通して学び、グループワークでは架空事例で生活版ジョブコーチ支援の視点で考えていただきました。今学んだことをすぐに活かし、活発な意見交換がされていました。自分の支援の中でこの部分を取り入れられそう、とそれぞれの立場で柔軟に吸収してくださる姿勢に、この支援技法が広がっていくためにこれからも尽力したいと思います。

2025.10.10
千葉リハ



▲例年、大盛り上がりのグループワーク！
ホワイトボードを使いこなします

小児交流会

今年度の小児交流会には、2組の親子が参加されました。親子レクリエーションの後、子どもは新聞紙タワーづくりなどのゲームで知恵を働かせて協力し合い、楽しそうに交流していました。家族は、先輩家族の体験談を聞いた後に交流を行いました。身近に成長モデルとなるお子さんがいない中、「同じ高次脳機能障害を持つ子の体験談が聞いて良かった」「将来に向けて準備を進めたい」といった声が寄せられ、有意義な時間となったことが窺えました。

2025.10.18
千葉リハ



▲新聞紙タワーづくり！

青年期当事者・家族 合同グループ

青年期当事者 クリスマス会

★例年人気の合同グループ企画「働く先輩の声を聞こう」、今年度は20代女性の先輩とお父様をお願いいたしました。初参加の方も、いつものメンバーも、真剣に聴いてくださり、続く分科会では「親御さんは心配しているけれど、ご本人は実は将来のことを考えているんだな」と感じる場面もチラホラ…。このイベントをきっかけに、親子で将来について話し合う機会が提供できたなら幸いです。
★昨年から始まったクリスマス会では、松ぼっくりツリーを作ったり、カードゲームをしました。普段、周りに高次脳機能障害のある方がいない環境で頑張っている若者たち…同じ境遇の仲間同士、肩の力を抜いて楽しんでくれていました。

2025.10.25
2025.12.24
千葉リハ



▲合同グループで
真剣にお話を
聞く皆さん



X'mas会
スタッフも
ノリノリ...

令和7年度千葉県高次脳機能障害支援養成研修

＜第1期＞

本研修は、高次脳機能障害の特性を理解し、適切な支援を実施できる支援者を養成することを目的としています。県内の事業所職員を対象に、オンデマンド講義に加え、3日間の集合形式による演習を実施しました(県内支援拠点機関が合同で講師・ファシリテーターを担当)。演習では、参加者の皆様が自身の経験を交えて積極的に発言されていたことが印象的で、お互いに多くの学びを得る貴重な機会となりました。支援地域が近い受講者同士によるグループワークは、今後の地域連携を強化するきっかけにもなると感じられました。研修修了者が、今後、それぞれの地域における高次脳機能障害者支援の充実に寄与していくことを期待しています [国保総合病院旭中央病院より]

2025.10.27-10.29
千葉市文化センター



▲3日間、朝から晩まで研修！

市川圏域障害者グループホーム等連絡協議会

令和7年度第一回管理者・サビ管研修会

グループホーム(GH)で高次脳機能障害のある方を受け入れた際にトラブルが続く、「高次脳の方はちょっと…」とGHへの受け入れに難しさが出ているので、まずは高次脳機能障害の基礎的な知識について話をしてほしい、と市川圏域の協議会から講義のご依頼をいただきました。高次脳機能障害の症状と対応のコツを知り、「受け入れられるかも…」と思っていただけでも、基本のお話と実際にGHを利用している方への支援の紹介をしました。最近GHから高次脳の方への対応についての相談も増えてきており、地域生活安定に向けて、今後も高次脳理解と支援を広げる活動を行っていききたいと思います。

2025.11.21
市川市急病診療
ふれあいセンター



タムス浦安病院 高次脳機能障害研修

「遂行機能障害について」・「病識の高め方」

12月と1月に2回シリーズでタムス浦安病院にて、「遂行機能障害」、「障害認識の高め方」についてそれぞれ研修を行いました。12月は千葉リハ回復期病棟で勤務をしているOTと、1月も同病棟で勤務をしているSTとペアでお話をしました。タムス浦安病院はフレッシュなスタッフが多数いるということで、みなさん真剣に研修に参加していただきました。リアルな現状を伺うことができ、高次脳機能障害支援センターとして、地域の医療機関に発信できることやその内容について、考えるきっかけをいただくことができました。

2025.12.15
2026.1.21
タムス浦安病院



▲回復期病院のスタッフの皆様のお役に立てますように...

鎌ヶ谷市 介護支援専門員向け研修会

2026.1.13
鎌ヶ谷市総合福祉保健センター

「性格的にとらえず、高次脳機能障害と理解してその人の味方になれるようないか」とご要望をいただき、講義と演習を行わせていただきました。障害を理解することで行動を理解できる、適した対応に繋がる、そして支援に繋がることを目的に構成を検討し、概論+演習を行いました。演習では障害の見立て・対応の検討について考えていただきました。日頃生活に寄り添っているケアマネさんたちですので、活発かつ適切なアイデアが出され私たちが学ばせていただきました。今後も地域の支援の輪の厚みが増していけるよう取り組んでいきたいと思います。





第22回 高次脳機能障害リハビリテーション講習会 「高次脳機能障がい あれこれ」

1月17日、第22回高次脳機能障害リハビリテーション講習会が開催され、「高次脳機能障がいあれこれ」をテーマに精神科医・上田敬太先生よりご講演をいただきました。講演では高次脳機能障害の概要にとどまらず、認知症や発達障害との違い、日常生活での具体的な対処方法などが分かりやすく解説されました。また、当事者ご本人が作成された資料も紹介され、当時の心境が伝わる印象的な内容でした。今回は運営委員としての参加でしたが、支援者としても多くの気づきを得る機会となりました。

2026.1.17
千葉県教育会館



聞きやすい語り口で、みんな先生の虜に

令和7年度 千葉県高次脳機能障害支援養成研修 ＜第2期＞

※本研修の目的・運営方法は前ページ＜第1期＞と同様
私は1日目に東葛北部グループのファシリテーターとして参加させていただきました。同じグループには相談支援専門員や精神保健福祉士、サービス管理責任者と様々な職種の方がいらっしゃいました。特に印象的だったのが、リハ職だと医療や障害についての特性を質問しがちですが、日常生活や経済状況、家族についての質問が多く出て多職種で事例検討することで多角的に患者をみる事が出来て、とても勉強になりました。[旭神経内科リハビリテーション病院より]

2026.1.27-1.29
千葉県教育会館



寒い中、今回も3日間！頭から湯気が...

香取圏域 障害者グループホーム等連絡協議会 世話人研修

昨年度あたりから、グループホーム界隈からのご依頼が増えていると感じます。今回は香取圏域の世話人さんたちに向けて「高次脳基礎」と「グループワーク」を実施いたしました。普段なかなか聞かれない言葉が多かったり、高次脳の視点で考える体験をしていただいたので、お疲れになったのでは...?とドキドキしていましたが、終了後には「大変勉強になった」「資料が見やすくて、このまま勉強用のテキストにできそう」など嬉しいお言葉をいただきました。今後も地域の皆様のお役に立てるような内容の研修を作っていきたいと思っています。

2026.2.4
みんなの賑わい交流拠点
コンパス



第9回 医療関係者向け 高次脳機能障害 就労支援研修会

就労支援に携わる医療関係者を対象に高次脳機能障害者の就労支援方法の普及啓発を目的として研修会を開催しました。前半は就労に向けた社会リハビリテーションの概要、支援のポイントなど事例紹介を取り入れての講義がなされ、後半は情報交換会が行われました。急性期/回復期/生活期における就労支援の違い、立場や役割によって違う困り事、居住地域での雇用や産業状況の課題などを共有し、退院後の復職を見据えた入院中の方への就労支援の視点、休職中の会社へのアプローチ方法・タイミングなど、活発な意見交換が行われました。

2026.2.7
千葉リハ



10/3 高次脳機能障害支援コーディネーター研修会 10/4 日本高次脳機能障害友の会 第21回全国大会2025 in 福井

コーディネーター研修会、シンポジウムが10/3-4の2日間に渡り行われました。今回の研修会は「知る・気づくから未来を育む」をテーマとし、横浜市独自事業を実施している事業所の取り組みを伺いました。シンポジウムは「つながる・つなげる」をテーマとし福井県における高次脳機能障害者支援のこれまでというテーマで講演がありました。地域移行・職場復帰後の地域での支援や家族の本人への関わり方を知ることができました。



駅前に恐竜がいました...!

11/14-15 第49回日本高次脳機能障害 学術総会 in 名古屋

2025年11月14～15日に名古屋市で開催された第49回高次脳機能学会学術総会に参加しました。講演やシンポジウム、セミナーは多彩で、多くがオンデマンド配信もされていました。一般演題は29セッション、ポスター発表は22セッションと大盛況で、支援者同士の交流も活発に行われていました。私自身も大いに刺激を受け、日々の支援への意欲が一層高まりました。



学会グッズ
買っちゃいました

11/28-29 第9回日本安全運転医療学会 学術集会

今回のテーマは「地域のネットワークづくりから始まる安心・安全な交通社会」であり、医療、福祉、交通などさまざまな分野の専門職が集い、活発な意見交換が行われていました。高次脳機能障害のある方にとって、運転は生活の自立や社会参加に大きく関わる重要なテーマです。一方で、症状の特性から安全性の評価や運転再開の判断、家族への支援など、多くの課題も伴います。学会では、医療機関による評価の取り組みや地域での支援体制づくり、多職種による連携の実践などが幅広く紹介されました。地域のネットワークを基盤とした支援の重要性についても、多くの示唆を得ることができました。



11/7-9 第59回日本作業療法学会 in 香川

今回、「高次脳機能障害者に対する就労に向けた障害認識を深めるプログラムの開発」というテーマで、当センターで行っている「働くためのグループ」についてポスター発表をしました。高次脳機能障害の方への就労支援について、ニーズの高まりとともに医療機関、就労移行なども作業療法士が関わることが増えています。そのため、今回行ったポスター発表でも多くの方に関心を寄せていただき、活発な意見交換をすることができました。今後の支援に大いに活かしていきたいと思っています。

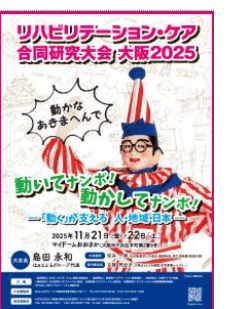


学会のうどん

11/21-22 リハビリテーション・ケア合同研究大会 大阪 2025

開催地企画シンポジウム「高次脳機能障害者を地域で支える」に、シンポジストの一人として登壇しました。このシンポジウムは、令和6年度障害者総合福祉推進事業として実施された「高次脳機能障害に関する支援の実態調査」および「適切な支援を提供するためのガイドラインの作成」を受け、「高次脳機能障害者への支援の手引き」が策定されたことをきっかけに企画されたものです。

私は、MSWおよび高次脳機能障害支援コーディネーターの立場から、地域での支援の実際や連携の大切さについてお話ししました。シンポジウムでは、さまざまな立場の参加者とともに、高次脳機能障害のある方が地域で安心して暮らし、自分らしい人生を歩んでいくためにはどのような支援が必要かを考える貴重な時間となりました。



2/8 第19回千葉県地域リハビリテーション フォーラム

今回のテーマは「私の考える地域に根ざした...とは」という興味深いもので、シンポジウム、ポスター報告、グループワークと盛沢山。フォーマル・インフォーマル様々な活動報告があり、「支援者が専門職の仮面を外した時、地域でしっかりと生活を営んでいることがベースになるのでは？」など参考になる意見がたくさんありました。高次脳センターは、特定の地域に根ざすというより、地域に根ざした人材を育成する・広報啓発の使命があると改めて感じました。

